

平成 30 年度第 2 回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事要旨

日時：平成 30 年 10 月 5 日（火）9：00～11：00

場所：松戸市役所 新館 7 階 大会議室

出席者：柳澤委員（会長）、藤村委員（副会長）、池澤委員、村山委員、小川委員、森委員

○議事

- (1) 前回議事の確認
- (2) モデル地域計画について
- (3) 全体計画について
- (4) 全体スケジュールについて
- (5) その他

(1) 前回議事の確認

事務局より、平成 30 年度第 1 回松戸市公共施設再編整備推進審議会の議事内容について説明を行った。

(2) モデル地域計画について

事務局より、平成 30 年度第 1 回小金原地域ワークショップ（平成 30 年 9 月 16 日（日）開催）及び第 2 回小金原地域ワークショップの開催案内（平成 30 年 10 月 21 日（日）開催予定）についての説明を行った。

<主な意見>

- 本ワークショップのポイントとしては、小金原地区会まちづくり部から公共施設再編について具体的な提案がなされたことである。また、それをきっかけに更に他の再編案が提案される等、地域の中で学校施設の再編について具体的な議論がなされたことが他の自治体では見られない成果であった。
- 今回のワークショップでは公共施設の再編に関して様々な案があがったが、第 2 回小金原地域ワークショップでは、これらの案を並列に考え、それぞれのメリット・デメリットについて検討していくことが必要と考えられる。具体的には、第 1 回ワークショップで意見のあがった学校施設の再編について具体的な意見交換が行われることが望ましい。
- 本ワークショップ開催結果の公表資料には、小金原地区会まちづくり部から公共施設再編に関する提案が行われたこと、グループワークの主な意見として学校施設の統廃合に反対する意見もあったことを追記するべきである。
- 本ワークショップの参加者は、40 代の方が多く、女性や子ども連れの住民の参加もあ

った。全体としてバランスのとれた構成になっており、現役世代を中心に積極的な意見が多く出された。

- 学校施設の再編に関しては教育委員会との調整等、困難な点も多いが、幅広い世代の方々に、小金原地域の現状と公共施設再編の必要性について考える機会になったという点で貴重なワークショップであった。次回以降のワークショップでも今回の様にテーマを決めて、小金原地域の現状を把握していただいたうえで住民の方の意見を聞くようにできれば良いと考える。
- 学校施設の再編に関して、学校教育の視点で議論が行われることが多いが、今後は近年増加する異常気象への対応等を踏まえて地域の防災の拠点とするというように、学校施設を地域の資産として考える等、様々な視点から議論を行う必要がある。

(3) 全体計画について

第1章 計画の目的・位置付け等について

事務局より、松戸市公共施設再編整備基本計画（骨子）【案】 第1章について説明を行った。

<主な意見>

- PPP/PFI 手法の導入に関する記載はないのか。PPP/PFI を導入している施設が判別できるようにすべきである。
- 第2章（5）に記載のとおり、市の財政負担の軽減に向けて、PPP/PFI 事業の導入についても検討しているが、現状として松戸市内には PPP/PFI 手法を導入して整備を行った施設はまだ無い状況である。

第2章 計画の実行について

事務局より、松戸市公共施設再編整備基本計画（骨子）【案】 第2章について説明を行った。

<主な意見>

- P6「基本方針① 公共施設総量の適正化」について、長寿命化に向けたリノベーション等の改修の手法も考えられるため、スクラップアンドビルドという表現は用いるべきではない。また、「教育施設を有効活用する」との表記では既存施設を維持することが前提であると誤解される可能性があるため「教育施設の適正規模化や多機能化等により有効活用を図る」とした内容に修正した方がよい。
- P6「基本方針② 公共施設の適正配置」について、「公共施設の適正量を見極めたうえで」とあるが、地域によって公共施設の適正量が異なるため、「地域ごとの適正量を見極めたうえで、市全体で適正配置を図ります。」といった内容に修正した方がよい。

- P6「基本計画④ 未活用資産等の有効活用」について、公共施設の再編整備により生じた余剰資産の活用方法について明記が必要である。主に良好な地域コミュニティに寄与する利活用を検討するといった趣旨の文章を追記した方が良い。
- P8～P9「2)評価の手法（基礎評価と総合評価）」について、総合評価では基礎評価をもとに施設全体の優先順位や施設同士の効率的な施設の組み合わせ等について評価を行うとした位置づけを明確にする必要がある。また、地域特性や施設種別によって評価における基準や考え方が異なることに留意した表現にすることが望ましい。
- P13「(1)進捗管理の仕組み」について、「CHECK」として行うことは、施設総量の状況、コスト削減額、利用状況等を把握することであり、シンポジウムにおける周知ではない。また「ACTION」についてもワークショップを行うことではなく、上記「CHECK」を踏まえて事業の軌道修正を行うことが目的である。さらに公共施設再編整備推進審議会については「PLAN」のみではなく「CHECK」「ACTION」にも関わる。上記の趣旨を踏まえてワークショップ、シンポジウム、公共施設再編整備推進審議会におけるPDCAサイクルでの関わり方の表現方法の修正が必要である。

→ ご意見を踏まえて、修正内容の検討を行う。

第3章 維持保全について

事務局より、松戸市公共施設再編整備基本計画（骨子）【案】 第3章について説明を行った。

<主な意見>

- 維持保全の基本的な考え方について、公共施設等総合管理計画で定めた公共建築物に関する実施方針「③安全確保の実施方針」としてバリアフリー化について記載しているが、高齢者や障がい者に対する建物利用時の配慮等が欠けているように感じるため、利用者の利便性の向上や機能改善等について記載しておくことが望ましい。
- ご意見を踏まえて、修正内容の検討を行う。

第4章 行程計画について

事務局より、松戸市公共施設再編整備基本計画（骨子）【案】 第4章について説明を行った。

<主な意見>

- P24「(教育施設) マネジメントの方向性」について、「東部小学校・第五中学校などにおいて、小中一貫校の設置を検討」とあるが、現時点では、体育館などの施設を共同利用することを想定されているということであれば、「連携校とする」等の表記に修正する方が良い。

- 小金原地域における「マネジメントの方向性」について、市民の目線に立ち、「地域まちづくりの中で地域内の公共施設の再編整備について検討」等といった、モデル地域としての取組みについての内容を記載してほしい。また他のモデル地域についても同様に、モデル地域としての今後の取組みなどがあれば追記することが望ましい。
 - 小金原地域における「全体行程表」について、短期には小金原市民センターのリノベーションについて検討する旨、中長期には小金原地域における学校施設の再編整備について検討する旨を記載してほしい。
- 東部小学校・第五中学校については現在のところ体育館の共有等による連携を想定している。あくまでも公共施設再編の視点での考えであるため、どのような形で小・中一貫校を整備するかについては再度教育委員会に確認を行う。

第5章 行程計画について

事務局より、松戸市公共施設再編整備基本計画（骨子）【案】 第5章について説明を行った。

<主な意見>

- 各モデル地域で取組みの過程や順序等が異なるため、地域の特性ごとに異なった視点・アプローチで取組みを進めていることについて、これまでの経緯をもとに整理してほしい。
 - 小金原地域については市民センターのリノベーション自体がモデル事業の目的ではなく、地域まちづくり事業として始まり、公共施設をはじめとする地域のまちづくりを考える過程の中で市民センターのリノベーションの検討や学校施設の再編検討についての議論に至るといったプロセスを示していくことが必要である。
 - 小金原市民センターの概要について、1階平面図のうち、小金原老人福祉センター部分の斜線を削除し、対象外ではないことが分かるようにしてほしい。
 - モデル地域における推進体制について、小金原地域での取組の展開のみの記載であるが、モデル地域によって推進体制が異なるため、他2地域についても地域別の取組を踏まえた記載内容について検討してほしい。
- 東部地域に関しては、今年度東松戸まちづくり用地に複合施設の検討を行っており、予算を措置する段階に至っている。基本計画では、まちづくり用地におけるプロジェクトの推進を基本として、官民連携事業における事業化プロセスの中で、市民参加手続きを取り入れながら事業を推進している旨の記載を検討する。

(4) 全体スケジュールについて

事務局より、松戸市公共施設再編整備基本計画における事業別スケジュールについて説明を行った。

(5) その他

平成 30 年度第 3 回松戸市公共施設再編整備推進審議会は平成 30 年 11 月 28 日（水）の午前 9 時から開催することとする。

(以上)